

なんでやねん

ノートの取り方について

ノートの「とり方」・「書き方」を変えるだけでも、学習の能率は大きく違ってきますし、学習を楽しくできるようになります。

一度した学習を、次の学習する際に役立てるために「とる」のが、ノートの一つの大きな意味です。しかし、一度がんばったことが、次に役立つようにしなければ、その努力はもったいないと思います。

そこで、ノートを取る方法の基本的なことを具体的に説明しておきます。

- ① 見開き1ページ（ふつうなら2ページになるところを1ページ分として利用する）で使い、1つの小単元しか書かないノートにすること。

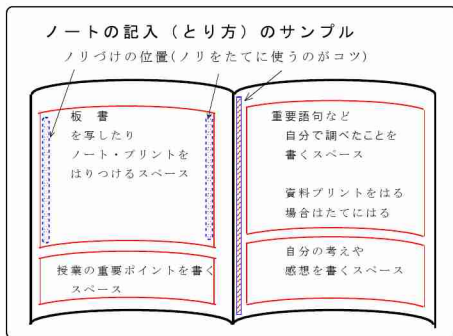
これは、実際には（通常）授業1時間分に当たります。

- ② 行をつめて書くのではなく、1つの文章ごとに、1行づつあけること。こうすることによって、非常に見やすいノートになります。

- ③ 専門用語で重要な語句には、色をつける（文字を赤色などで書き込むより、鉛筆で書いておいて、後からマーカーペンなどで塗る）などの工夫をすること。

- ④ 板書（先生が黒板に書いたこと）を写すところと、自分で調べたり、自分が考えたことを書くスペース（位置）などを、きっちりと区別しておくこと。

たとえば、左の方には板書、右上は自分で調べたこと、右下は自分が感じたことや考えたことを書き込む。というように。



- ⑤ 板書では、専門用語やキーワードしか先生は書かないことが多い。そこで、右に、その専門用語やキーワードの意味を調べて、ノートにしておく。

こうすれば、テスト前には、ノートが完全に「練習問題集」を兼ねることができる（右だけを見て、専門用語の関係や事項の因果関係を考えたり、左だけを見て、専門用語の意味が言えるかどうかを練習できるからです）。

ノートをつくる際に重要なこと

- ① 学習した内容が、一目でわかるようなノート。
- ② 芸術品をつくる必要はない。自分が後で見ても、読む気になるノートであれば良い。したがって、できる限りスピードを上げてノートをとること。
- ③ 自分で、テスト勉強するためなどに利用するときに、問題集の代わりをすることができるようなノートが、効率的である。

- ⑥ プリントをはる位置は、何も書いていないページ（スペース）であること。
プリントをめくらなければ、ノートの内容が見えないようでは、見開き1ページにしている意味が全くありません。自分が読みたい本の上に、プリントをはりつける人はいないでしょう。それと同じなのです。

＊ ＊ ノートにプリントをはりつける場合は、縦にノリをつけてノートのページをめくりやすくすること。 ＊ ＊

- ⑦ プリントを重ねて貼らないこと。上のプリントをめくらないと、次のプリントを見ることができないようでは、下のプリントを見ることは、ほとんどないでしょう。

ノートの評価基準について

ノートの取り方も評価の対象にします。学期末の評価には、「意欲」に組み込みます。評価基準は次の一覧表の通りです。

ノートの評価基準	
ノートの状況	評価
板書事項や説明をていねいにまとめ、自分で調べたことなども書き入れるなど工夫している。	A
板書事項や説明をていねいにまとめ、読みやすく工夫している。	B
板書事項を欠落なく書き写している。文字もていねいである。	C
板書事項を欠落なく書き写している。しかし、文字が乱雑で読みにくい。	C
板書事項を欠落なく書き写している。しかし、配列が乱雑で読みにくい。	C
板書事項をていねいな文字で書き写している。しかし、欠落が多い。	D
板書事項を書き写している。しかし、文字が乱雑で、欠落が多い。	D
板書事項を書き写している。しかし、整理が乱雑で読み取りにくい。	D
板書事項の書き写しに多くの欠落部分がある。	E
指導を重ねても、ノートを取ろうとしない。	E
指導を重ねても、ノートを準備しない。	E